

平成 28 年度第 1 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「早春の里山林の植物観察と歴史～阿見町小池，小池城址」を実施しました。

開催日時：平成 28 年 4 月 9 日（土） 9 時 30 分から 15 時 00 分まで

開催場所：稲敷郡阿見町小池：小池城址，阿見町若栗：阿見町ふれあいの森

参加者：40名

平成 28 年度第 1 回の霞ヶ浦自然観察会は阿見町にある小池城址にて，植物の観察を中心に，その地の歴史や人とのかかわりもテーマに加えて実施しました。

講師は植物の自然観察会で，お世話になっている福田良市先生。また小池城址の歴史については当センター沼澤篤が担当しました。また当日は現地で土浦植物の会・稲川様，宍塚の自然と歴史の会等で幅広く野外調査をされている松田様，阿見野草の会・大森様ほかの御協力により，充実した観察会を行うことができました。

小池城址は戦国時代前期に土岐氏に連なる家臣が城主であったと考えられる古城跡で，土塁や空堀等がいまも残っています。江戸時代には薪炭林として利用され，その薪で作られた炭は小野川の水運を利用して，江戸に運ばれていたそうです。現代においても地元の保護により，クヌギやコナラからなる良好な里山の雑木林が残っています。

早春のこの時期，雑木林の落葉樹は葉を落としているため，林床まで明るい光が届きます。観察地の雑木林でも明るい光が差し込み，この短い季節をねらって多くのスミレの仲間やフデリンドウなどが美しい花を咲かせていました。

また茨城県では阿見町と牛久市のみに見られるセンダイタイゲキや，ツクバトリカブトなども見ることもできました。薬草になる植物も多く見られ，小池城には薬草園があったのではないかと歴史と植物のかかわりも感じることもできました。

また小池城址の雑木林は土がふかふかで，とても肥沃な土壌であることがわかりました。このような土壌は水分をたくさん含むことができるため，水源かん養作用の面でも，霞ヶ浦に大きな恵みを与えています。

小池城址では貴重な植物を踏まないように，終始足元に注意しながら進んで行きましたが，きれいな花や珍しい植物が次々と見つかり，あっという間に時間が過ぎていきました。

小池城址での観察のあとは桜が満開の阿見町運動公園での昼食を挟み，午後は阿見町ふれあいの森を散策しました。ふれあいの森でも多くのスミレの花が咲き誇っていました。

今回の観察会では，人が適度に手を加えることで維持される里山の雑木林が，遷移途中の二次的自然に依存する多くの生き物の生活の場を提供していることをあらためて実感することができました。またそのような場所は古くから人と密接にかかわっていることも今回の観察会で学ぶことができました。

福田先生には今年度も 6 月の自然観察会（妙岐ノ鼻での植物観察）をはじめ，植物の観察会にて講師をお願いすることになっています。また今回は土浦植物の会・稲川様をはじめ，地元の方々の御協力を頂き，充実した観察会を行うことができました。そしてパートナーの皆さん，そして参加者のみなさん，大変ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子と観察した植物の一部を御紹介します。

(撮影協力：パートナー・有吉さん，尾形さん)



福田先生と参加者のみなさん



ツクバトリカブトです。



センダイタイゲキ



花が咲き始めていました。



アカネスミレ



フデリンドウ



ウラシマソウ



土塁が見えます。

観察した植物はおよそ 110 種類でした。